

第3回資料

4 議事（1）

- ・令和7年度使用県立中学校教科書の採択に係る校長意見について

(様式：校長意見)

令和7年度使用県立中学校教科書の採択に係る意見

県立千葉中学校長 高梨 祐介

<p>本校は、「千葉から、日本でそして世界で活躍する心豊かな次代のリーダーの育成」の教育理念のもと、学校教育目標として次の3点を掲げている。</p>
<p>1 知的欲求に働きかけて、不断に学び続ける自主性を伸ばし、揺るぎない学力を基礎とした幅広く深い教養を育成する。</p>
<p>2 多くの人々とふれ合い協働して互いに高めあう中で、他人のいたみのわかる、うるおいに満ちた人間性を育成する。</p>
<p>3 わが国の伝統や文化に対する深い理解と実社会への共感をもとに、社会貢献の志を育み、自己を確立する基盤を育成する。</p>
<p>これらの実現に向けて、教科指導においては、中学校段階で学ぶべき教科をバランスよく、かつ深く学ぶことができるよう工夫している。また、小集団での学習を積極的に取り入れるなど、中高一貫教育の利点を生かした「協働的な学び」と「スパイラル学習」を重視した教育課程を独自に編成している。学校設定科目「学びのリテラシー」では話し合う力や発表の技術を育成し、「総合的な学習の時間」では、千葉高ノーベル賞に繋がる「一人一研究」を通して、課題を発見し、追究する力を育成している。その他、大学医学部による理科特別授業や社会人講演会を行い、実社会への共感力、社会貢献の志を育て、社会の中で自己実現をしようとする意欲を高めている。</p>
<p>本校生徒は、知的好奇心が高く、主体的に日々の学習に取り組むだけでなく、あらゆる場面で積極的に探究し、その成果を表現豊かに発表することができる。また、自主性、協力性、コミュニケーション能力が高く、すべての学校行事を生徒が運営するなど、高い志をもって諸活動に取り組んでいる。現在使用している各教科等の教科書については、本校生徒に対して最大の効果が出せるよう教材研究を行い、有効に活用している。特に「揺るぎない学力」の基となる基礎的・基本的な学力の定着に効果を発揮している。</p>
<p>現在、本校は中高連携の一層の推進を図るため、教育活動全体の見直しを行っている。各教科においても高等学校との連携協働を充実し、6年間の内容や系統性を踏まえた教育課程の編成を進めているところである。</p>
<p>以上のことから、本校の教育目標の達成に向けて、よりふさわしい教科書の選定を切望する。</p>

(様式：校長意見)

令和7年度使用県立中学校教科書の採択に係る意見

県立東葛飾中学校長 稲川 一男

<p>本校は、「自主自律」の校是のもと「世界で活躍する心豊かな次代のリーダーの育成」を基本理念とし、『揺るぎない学力』と『自己規律力』を高め、6年間を通した目標である次代のリーダーの基礎を築くことを学校教育目標に掲げています。</p>
<p>これらの実現に向けて、基礎基本を徹底するとともに、もう一步ハイレベルな深い学びへのチャレンジや、授業における「Input、Think&Share、Output」の学習サイクルにより、生涯にわたる能動的な学習習慣を確立しています。また、総合的な学習の時間「つなげる力」や学校設定教科「つながる力」での発達段階に応じた活動を通して、全ての生徒が探究学習の基礎を学び、互いに発表し評価しあうことで、論文作成やプレゼンテーション能力向上を図っています。</p>
<p>本校の生徒は、好奇心が旺盛で日々の生活の中でさまざまなことに興味・関心を持ち、それらについて調べ、突き詰めています。また、授業内では誰もが主体的に取り組み、他者を尊重した協働を通して「人間力」や「思いやりの心」等が育っています。その育成に向けて職員は、ICTを有効に活用して「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的充実を図り、学習指導要領を確実に実施しています。また、「スチューデント・ファースト」で生徒の成長を支援し、エージェンシーの育成と自己有用感の向上を図るために、職員一人ひとりが日々自らの力量を高めています。</p>
<p>本校では、「すべての生徒と教職員が幸せな生活を送れる（Well-beingを実感できる）学校」及び「保護者と地域の方々に信頼される学校」を目指し、スクール・ポリシーに掲げる教育方針の実現に一層取り組む必要があると考えます。現在の使用教科書は、学習指導において生徒の主体的な活動を重視した教育活動の展開から必要十分なものと考えますが、協働的で探究的な学びについて一層の充実を図ってまいります。</p>
<p>以上のことから、本校教育目標の達成によりふさわしい教科書の選定を切望します。</p>